

II 各論

第1章 生涯にわたり生きがいを持って活躍できる社会づくり

1 就労的活動の促進

2 地域活動への参画促進

- (1) 老人クラブ活動への参加促進
- (2) ボランティア・NPO活動等への参加促進

3 生涯学習やスポーツ等の推進

- (1) 生涯学習の推進
- (2) ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

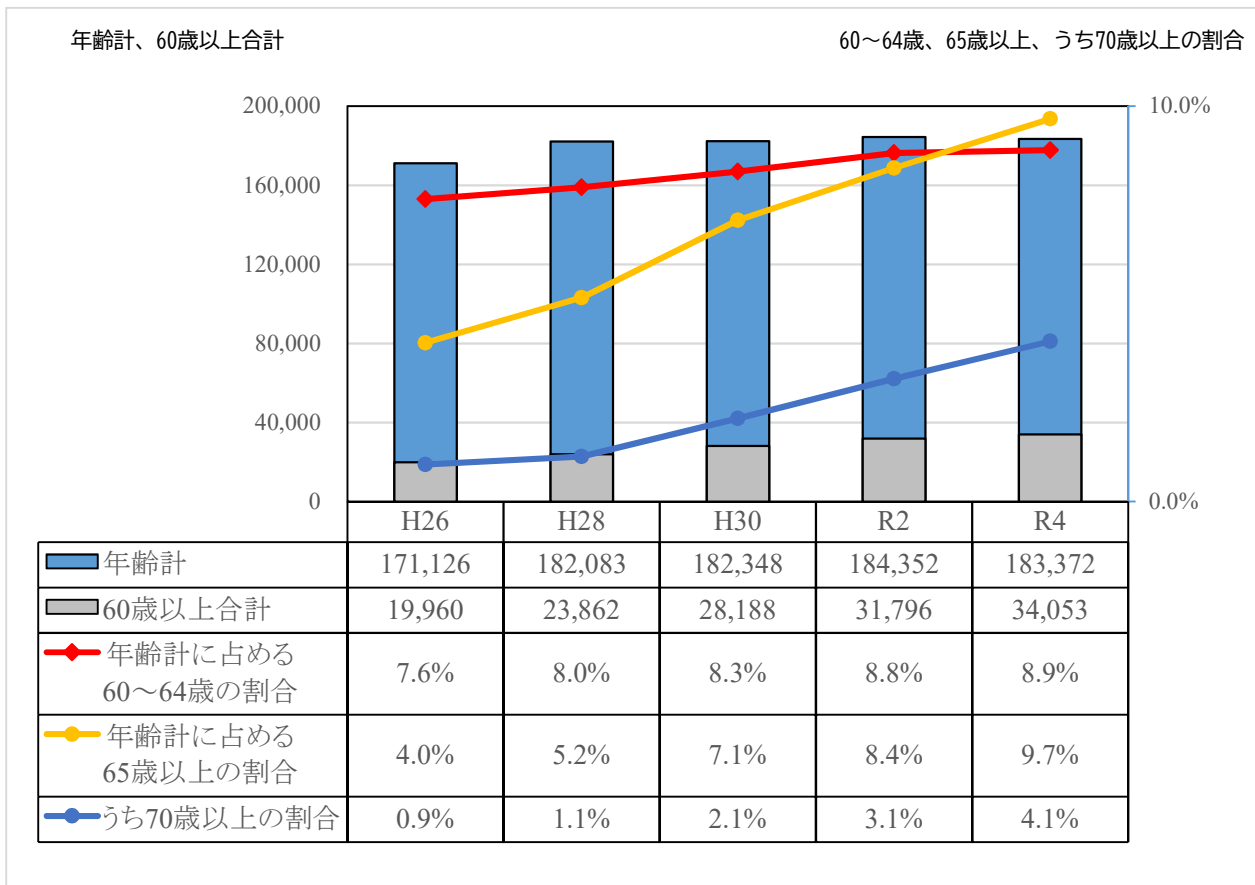
1 就労的活動の促進

■現状と課題

- ・ 高齢者が地域において自立した日常生活を営むためには、役割がある形で社会参加することが有効とされています。また、少子高齢化の進展に伴い、生産年齢人口の減少が進む中、年齢、性別等に関わらず、多様な人材が活躍する社会の実現が求められています。そのような中、雇用・就業契約、請負契約、ボランティアを含む有償・無償を問わない社会参加活動に役割のある形で高齢者が参加すること（「就労的活動」という）が重要です。そのため、働く意欲のある高齢者がその豊富な知識や経験を生かし、生涯現役で働き続けることができるよう就業環境を整備することが必要です。
- ・ 多様な形態による雇用・就業を促進するとともに、企業が求める人材と求職者が求める条件等におけるミスマッチを減らすことや、高齢者の雇用・就業に対し総合的な支援を行っていくことが重要です。併せて、就労的活動の場を提供できる民間企業・団体等と就労的活動を実施したい事業者をマッチングし、高齢者個人の特性や希望に合った活動をコーディネートする人材が求められます。
- ・ 国との雇用施策の一体的実施事業として「大分県中高年齢者就業支援センター」を運営し、40歳以上の中高年齢者を対象に、職業相談、職業紹介やキャリアコンサルティングなどの就職支援をワンストップで行っています。
- ・ そのほか、県では事業所訪問やシニア人材活用セミナー、高齢者雇用優良事業所表彰等を通じて、働く意欲のある高齢者が働き続けることができるような就労環境整備の促進をはじめとする高齢者雇用の促進を図っています。
- ・ また、現在、高齢者のライフスタイルに合わせた臨時的、短期的、軽易な仕事を提供するシルバー人材センターが県内に14か所設置されています。シルバー人材センターは、高齢者の就業意欲に応え社会活動に参加する機会を確保するとともに、その豊かな知識や経験を地域社会において活用しており、少子高齢社会の中で、果たすべき役割はますます大きくなっています。

[図1-4] 高齢者就業者数・割合

(単位:人、%)



出典：大分労働局「高年齢者雇用状況等報告」（令和4（2022）年）を基に加工

[表1-4] 大分県中高年齢者就業支援センター業務取扱状況

	①初来所者数	②リピーター数	③紹介件数	④就職件数	⑤就職率 (④/①)
平成28年度	1,671	4,401	2,485	717	42.9%
平成29年度	1,291	3,185	1,826	594	46.0%
平成30年度	1,255	3,037	2,125	648	51.6%
令和元年度	1,138	3,059	1,972	601	52.8%
令和2年度	1,164	2,700	1,812	521	44.8%
令和3年度	1,143	3,217	2,211	548	47.9%
令和4年度	970	3,434	1,940	528	54.4%

出典：大分労働局調べ

1 就労的活動の促進

〔表1-5〕 シルバー人材センターの状況（令和5（2023）年3月31日現在）（単位：人）

シルバー人材センター名	会員数	就業実人員		就業延人員		
		請負・委任	派遣	請負・委任	派遣	
(公社)大分市シルバー人材センター	1,700	974	433	92,439	57,218	
(公社)別府市シルバー人材センター	448	350	55	45,439	6,430	
(公社)中津市シルバー人材センター	470	303	37	32,863	3,833	
(公社)日田市シルバー人材センター	250	210	60	19,130	3,204	
(公社)佐伯市シルバー人材センター	360	309	71	29,112	5,483	
(公社)臼津地域シルバー人材センター	392	318	62	34,312	7,680	
(公社)宇佐市シルバー人材センター	390	259	87	22,234	6,644	
(公社)豊肥地域シルバー人材センター	423	361	78	29,729	3,970	
(公社)国東市シルバー人材センター	204	174	30	13,989	2,606	
(公社)豊後高田市シルバー人材センター	159	110	11	13,816	1,423	
(公社)由布市シルバー人材センター	202	142	46	11,355	3,991	
(一社)杵築市シルバー人材センター	144	119	1	13,625	214	
(一社)日出町シルバー人材センター	108	58	24	4,525	3,223	
(一社)玖珠町シルバー人材センター	155	133	2	10,623	108	
計	5,405	3,820	997	373,191	106,027	
前年度比	実数	48	34	61	△ 3,920	3,951
	伸び率	1.01	0.99	1.07	0.99	1.04

出典：公益社団法人 大分県シルバー人材センター連合会

「シルバー人材センター事業運営状況 令和5年度版（令和4年度実績）」

■施策の方向

- 生涯現役社会の実現に向けて、高齢者の活躍の機会を拡大することで社会参加を促すとともに、その能力を存分に発揮できるよう、就職支援の強化や地域の多様なニーズに対する就労環境の整備を推進します。高齢者が活躍するための就労環境整備や就労意欲向上のポイント等について、専門家を講師とする企業向けセミナーを開催するほか、事業所訪問を通じたシニア雇用の意識啓発やシニア向け業務の切り出し支援等を行っていきます。高齢者施設等においては、介護の周辺業務（部屋の掃除、食事の片付け、ベッドメイク等）の切り出しを行い、これらの業務を担う介護補助職への参入促進を支援します。
- 高齢者個人の特性や希望に合った就労的活動のコーディネートをする人材の配置を推進します。また、加齢とともに身体機能が落ちて転倒等が発生しやすくなることから、そういった労働災害を防止するため、事業所だけでなく高齢者一人ひとりに労働災害について意識してもらうよう呼び掛けていきます。
- 国と一体的に実施する「大分県中高年齢者就業支援センター」においては、事業所訪問データ等を生かした中高年齢者への職業相談、職業紹介やキャリア形成支援等により、再就職の支援を行います。相談者一人ひとりの状況に応じた効果的できめ細やかな取組を行うことで、利用者の満足度・利便性の向上を図り、求人と求職のミスマッチを減らして、更なる個別のマッチングへと繋げていきます。

- 雇用に関する「豊の国雇用促進フェスタ」や「九州・山口生涯現役社会推進大会」といった各種大会行事では、高齢者の雇用促進に積極的に取り組んでいる企業等について、高齢者雇用の優良事業所として表彰することで、社会全体としての高齢者雇用の機運醸成を図っていきます。
- そのほか、高齢者が長年培った知識・経験・技能を活かし、働くことを通じて生きがいを得て、地域社会の活性化に貢献できるよう、県内のシルバー人材センターの会員の拡大や仕事の受注量の確保に向けた広報・啓発活動をより一層推進します。また、大分県シルバー人材センター連合会の運営を補助することで、60歳以上の一般高齢者及びシルバー人材センター会員を対象とした技能講習や就業体験を行い、人材育成と就業機会の確保に継続して取り組んでいきます。

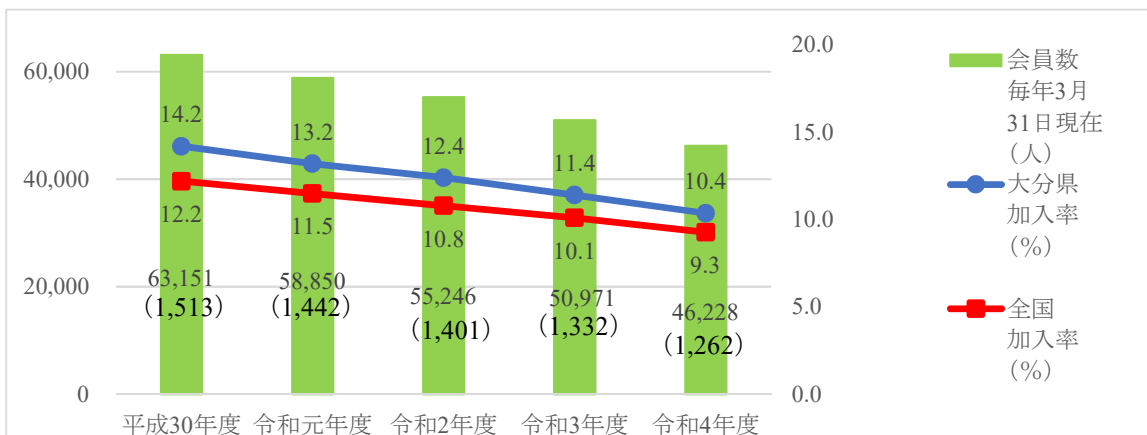
2 地域活動への参画促進

(1) 老人クラブ活動への参加促進

■現状と課題

- ・ 地域を基盤とする自主的な組織である老人クラブでは、体操、趣味活動など日々の生活を豊かにする活動や、友愛訪問、子育て支援など地域を豊かにする活動を行っています。今後、高齢化の更なる進展が見込まれる中、高齢者を主体とする介護予防と相互の生活支援の観点からその活動及び役割はますます期待されており、引き続き、こうした活動を推進していく必要があります。
- ・ 一方で、令和4（2022）年度末の県内の老人クラブ数及び会員数は、1,262クラブ、46,228人であり、クラブ数、会員数ともに減少傾向が続いています。
60歳以上人口に占める老人クラブ加入率は10.4%となっており、県内の老人クラブでは、令和5（2023）年度より3か年の会員増強運動に取り組んでおり、こうした取組への支援が必要です。
- ・ また、近年休会や解散となる老人クラブも増加しているため、活動の継続、再活性化に向けた取組に対する支援が必要です。

[図1-1] 老人クラブ会員数と加入率（%）



出典：厚生労働省「福祉行政報告例」に基づき計算 ※（ ）書きは老人クラブ数

[表1-1] 老人クラブ加入率全国順位

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	(2018)	(2019)	(2020)	(2021)	(2022)
加入率（大分県）	14.2	13.2	12.4	11.4	10.4
加入率（全国）	12.2	11.5	10.8	10.0	9.0
全国順位	22	22	22	21	23

出典：厚生労働省「福祉行政報告例」及び

総務省人口推計、大分県人口推計（年報）（各年度10月1日時点）
に基づき計算（加入率＝老人クラブ会員数／60歳以上人口×100）

■施策の方向

- ・ 老人クラブにおける、高齢者自らの生きがいを高め健康づくりを進める活動やボランティア活動をはじめとした地域を豊かにする各種活動を支援します。
- ・ 県・市町村老人クラブ連合会が行う加入率向上に向けた啓発広報活動等の老人クラブの活動促進や介護予防・健康づくり、地域の支え合い等に資する取組を支援します。
- ・ 市町村老人クラブ連合会において各種取組を円滑に実施するための事務局体制強化を支援します。



[老人クラブによる社会奉仕の日の活動（津久見市）] [健康器具を立上げ経費助成により導入し健康づくりに励む老人クラブ（豊後大野市）]

■目標指標

指標名	単位	令和4（2022）年	令和8（2026）年
		基準値	目標値
老人クラブ加入率全国順位	位	21	16

出典：厚生労働省「福祉行政報告例」及び

総務省人口推計、大分県人口推計（年報）（各年度10月1日時点）に基づき計算

2 地域活動への参画促進

(2) ボランティア・NPO活動等への参加促進

■現状と課題

- 人口減少社会の進行や県民ニーズ、価値観の多様化、地域コミュニティ機能の低下などを踏まえ、ボランティアやNPO（NPO法人、任意団体）の活躍が期待されており、保健・医療・福祉、まちづくり、社会教育など、多様な分野で約450の特定非営利活動法人（NPO法人）が活動しています。
- 地域の課題を自ら解決しようとする県民や優れた経験・技術を持った高齢者等が、その意欲や技術をボランティアやNPO活動に活かすことは、社会貢献とともに、本人の「生きがい」や「喜び」につながります。
- 県内で活動するNPOの役員の平均年齢は60代以上が64.3%で高齢者が活躍する一方、NPOが取り組みを継続し発展させていくためには、後継者育成やノウハウの継承などが求められています。

[表1-2] 大分県内NPO法人の活動分野上位（複数選択）

区分	1位	2位	3位	4位	5位
活動分野	保健・医療・福祉	まちづくり	社会教育	こどもの健全育成	NPOの連絡助言援助
NPO数	282	269	260	255	252

出典：大分県のNPO法人数の状況（令和5（2023）年3月31日現在）

[図1-2] 大分県内NPOの役員の平均年齢等について



団体役員の平均年齢

後継者の確保に関する課題（複数回答）

出典：令和4（2022）年度大分県NPO団体等の現状把握に関する調査

■施策の方向

- NPO、企業、行政などをつなぎお互いの連携が図れるような環境づくりに努めるとともにNPO活動や協働事例などの情報提供を充実することにより、県民の理解を深め、ボランティア・NPO活動への参加を促します。
- 高齢者等が豊富な経験や技能を活かし、地域の支え手となれるよう、ボランティア・NPO活動への参加促進や活動に対する支援など、地域活動に主体的に取り組める仕組みづくりを促進します。
例えば、市町村や市町村社会福祉協議会等と連携して、高齢者等がボランティアやNPO活動等へ参画するための講座を開催するなど、ニーズ（地域の課題）とシーズ（ボランティア希望者）が円滑にマッチングするような仕組みを構築します。
- 高齢者も積極的にボランティア・NPO活動に参加できるよう、おおいたNPO情報バンク「おんぼ」等を通じてボランティアやNPOに関する情報提供を行います。
- NPOが活動を継続・発展できるよう、若い世代や現役世代にNPOに関する情報発信を行い、活動への参加を促します。

■目標指標

指標名	単位	令和4（2022）年	令和8（2026）年
		基準値	目標値
65歳以上の高齢者のボランティア登録数	人	15,793	15,935

出典：社会福祉法人大分県社会福祉協議会「ボランティア登録者数」

3 生涯学習やスポーツ等の推進

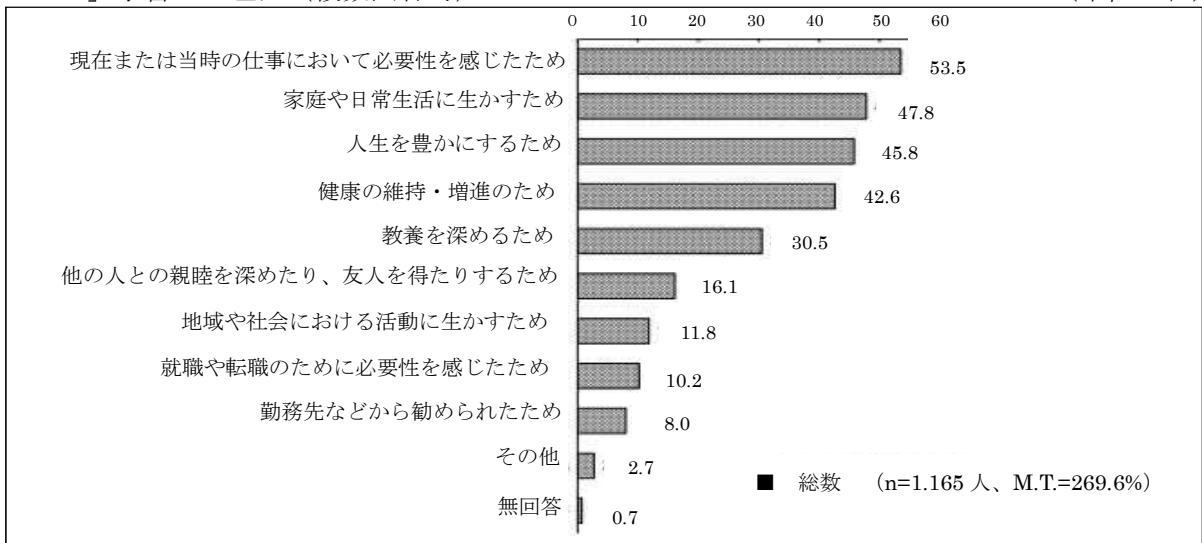
(1) 生涯学習の推進

■現状と課題

- 生涯学習^{※1}・社会教育^{※2}は、地域住民同士が学びあい、教えあう相互学習などを通じて、教養の向上や健康の増進等を図り、日常生活を豊かなものにするとともに、人と人との絆を形成する役割を果たしてきました。職業における技能・専門性の向上、社会を生き抜く力の養成や、絆づくりと活力あるコミュニティの形成等を進める上で、生涯学習・社会教育が果たす役割は重要となっており、高齢者にとって生きがいのある豊かな人生につながるものです。
- 高齢者へ多様な学習機会を提供できるよう、県や市町村、大学、NPO、民間事業者等が幅広く連携する必要があります。また、公民館や図書館、博物館などの生涯学習関連施設の充実や指導者の養成、情報提供体制の整備等、学びの環境の充実を図ることも求められます。
- 生涯学習の推進にあたっては、本人の学習が個人的な満足感にとどまることなく、その学習成果が学校や地域社会に生かされるようにすることが大切です。

[図1-3] 学習した理由 (複数回答可)

(単位：%)



出典：内閣府「生涯学習に関する世論調査」(令和4(2022)年度)



[高齢者の小学生チャレンジ教室への参加]

※1 生涯学習：人が生涯を通じて行うあらゆる学習(学校教育・社会教育・文化活動・スポーツ・趣味など)

※2 社会教育：学校教育として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動(体育及びレクリエーションの活動を含む。)

■施策の方向

- 学習機会を提供する様々な機関、事業者等と幅広く連携した講座・セミナーの開催とともに、県立図書館では課題解決のためのレファレンス※³を行い、今日的課題に関する学習プログラムの作成及び指導者研修を実施するなど、高齢者の生涯学習を総合的に推進します。
- 生涯学習情報提供システム「まなびの広場おおいた」※⁴を通じて、講座等学習機会に関する情報を幅広く提供することにより、高齢者をはじめとする多くの方の受講を促進し、地域活動やボランティア等で活躍する地域人材を育成します。
- 地域活動やまちづくりをはじめ、子どもへの学習活動や体験活動の提供など、地域全体で子どもたちを守り育む「協育」ネットワーク※⁵の取組等への高齢者の参加を促進するなど、学習成果を生かせる場の充実を図ります。

■目標指標

指標名	単位	令和4（2022）年	令和8（2026）年
		基準値	目標値
「協育」ネットワークの取組に参加する地域住民の割合	%	9.8	10.3

※3 レファレンス：利用者が調査・研究をする際に、必要な資料等の入手を司書が支援するサービス

※4 「まなびの広場おおいた」：県民の多様な学習ニーズに応えるため、インターネットを利用した学習に関する講座、学習機会、施設などの情報を提供するシステム

※5 「協育」ネットワーク：学校・家庭・地域がそれぞれの役割と責任を持ち、連携・協力して子どもに関わる教育の協働（「協育」）を推進するためのネットワーク

3 生涯学習やスポーツ等の推進

(2) ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

■現状と課題

- ・ 身近な地域で日常的な運動・スポーツ活動の場を提供する「総合型地域スポーツクラブ」は地域の実情に応じた活動を展開しているが、人材の発掘・育成や財源確保、認知度の向上等が課題です。
- ・ 男性及び女性とも健康寿命が平均寿命を10歳程度下回っており、スポーツを通じて健康でいきいきとした高齢者を増やす取組が必要です。
- ・ 日頃の運動・スポーツ活動の成果を発表する機会を確保するため、「豊の国ねんりんピック」や「県民すこやかスポーツ祭」種目別大会数の増加や参加人数の増加に向けた取組が必要です。

[表1-3] 総合型地域スポーツクラブの会員数

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	(2018)	(2019)	(2020)	(2021)	(2022)
総会員数(人)	17,509	16,134	14,438	14,811	14,341
60歳以上の 会員数(人)	6,823	6,531	6,153	6,195	5,999
60歳以上の 割合(%)	39.0	40.5	42.6	41.8	41.8

出典：スポーツ庁調査

■施策の方向

- ・ 「総合型地域スポーツクラブ」経営者・指導者の育成等を通じて、身近な地域で継続的にスポーツに親しめるよう、クラブの質的充実を支援するとともに、クラブへの加入を促進します。
- ・ 高齢者のニーズに対応したスポーツ活動が身近な地域で日常的に行えるよう、関係団体や総合型クラブ等と連携する中で、スポーツイベントや健康教室等を開催し、高齢者のスポーツ参加機会の充実を図ります。
- ・ 高齢者を中心とした健康と福祉の祭典である「豊の国ねんりんピック」の実施内容の充実、こどもから高齢者まで誰もが気軽に参加できる生涯スポーツの祭典である「県民すこやかスポーツ祭」等の各種スポーツイベントへの積極的な参加の促進など、日頃のスポーツ活動の成果を発表する機会を確保するとともに、世代を超えた交流を図ります。

■目標指標

指 標 名	単 位	令和4（2022）年	令和8（2026）年
		基準値	目標値
豊の国ねんりんピック （スポーツ・文化）参加者数	人	4,412	5,624

